



学習評価の意味を考える

早々に梅雨も明け、すでに猛暑が続いておりますが、子ども達は暑さに負けず、元気に過ごしております。1学期もまとめの時期になりました。この後、各学級では学んできた内容を確認し、成長を認め課題を明らかにし、夏休みを迎えられるよう指導してまいります。

さて、1学期の子どもの成長については学期末に通知票でお伝えしますが、学校は、子ども達が「確かな学力」を身に付けるため、毎時間、教科ごとに観点別学習状況の評価を行い、一人一人の状況を把握し、個に応じた指導を行っています。また、評価を指導に生かすことで、子どものよさや可能性を引き出し、やる気を引き出すようにしています。そのことが、学習評価の大切な点です。

また、学習以外の場面でも、可能性を伸ばす努力をしています。私自身、「子どもの良いところを誉め、認め自信をつけさせる」ことの実践に努めておりますが、実際にはなかなか難しいことです。つい課題が目について指導や注意をしたくなります。それでも、私たち大人は、子ども一人一人のよさを生かし、自分を価値ある存在として認められるよう次の視点をもって子どもに接していくことが大切だと考えます。

○可能性を広げる 「○○をさせよう」「きっと自信がつくだろう」「○○が上手になったね」

○励ます 「忘れ物が減ったね。次はもっと減らせると思うよ」

○褒める・認める 「掃除をしたことでみんな気持ちが良いよ」

これらのことは、通知票からも見て取ることができますが、どの程度身につけているかではなく、これからどのように声をかけていくのかが、学校でも家庭でも大切なポイントだと思っています。これからも子どもへの言葉かけを大切に、保護者・地域の方々と子どもの可能性、長所を連携して伸ばしてあげることができればと思います。

英語の学習について

令和2年度より、3、4年で英語活動として年間35時間、5、6年で英語科として年間70時間実施しています。語数も600～700語程度ふれるようになっていきます。学習を通して「聞く・話す・読む・書く」の力を育てます。3、4年では、「英語に親しむとともに自分や身の回りのことについて質問したり答えたりする」ということが目標となっています。5、6年では、「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」の活動を行っています。そして、「より多くの表現を使って、会話を続けられるようになる」ということも目標になります。英語による会話のなかには、過去形や3人称や「can」等の助動詞も扱いますが、中学校のように「文法事項」として指導したり、単語を確実に習得させたりということは求めません。会話が続けられるように、習った表現を身に付けるということが指導の中心となります。

本校では、3年生以上は、AETのジェレミー先生と教員の二人体制で指導を行っています。また、高学年は教科担任制を導入しており、英語担当の教員が指導にあたっております。英語好きの児童が育成できるよう、歌やゲームを取り入れながら楽しく学べる工夫を重ねています。お陰様で、英語ルームからは、いつも元気いっぱい楽しそうな声が聞こえてきます。今後も、積極的に楽しく英語に触れ、慣れていく機会を増やし、指導内容・指導体制の充実を図ってまいります。

